

経営比較分析表（令和6年度決算）

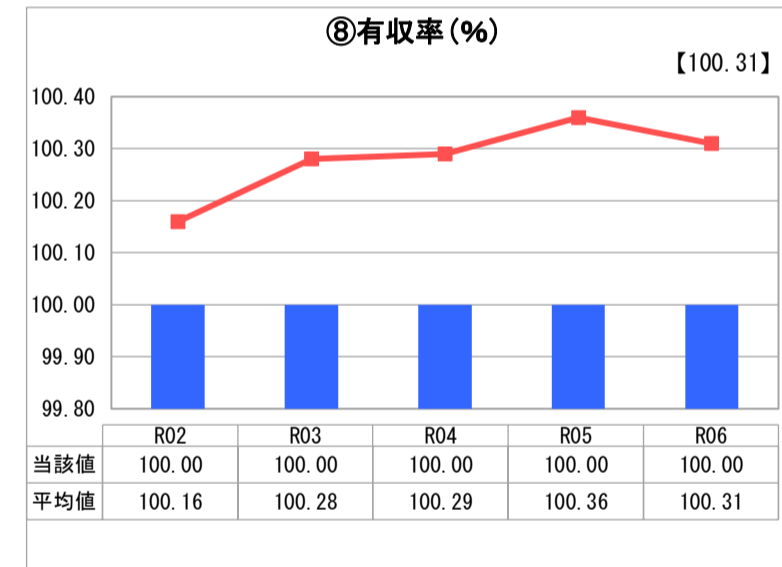
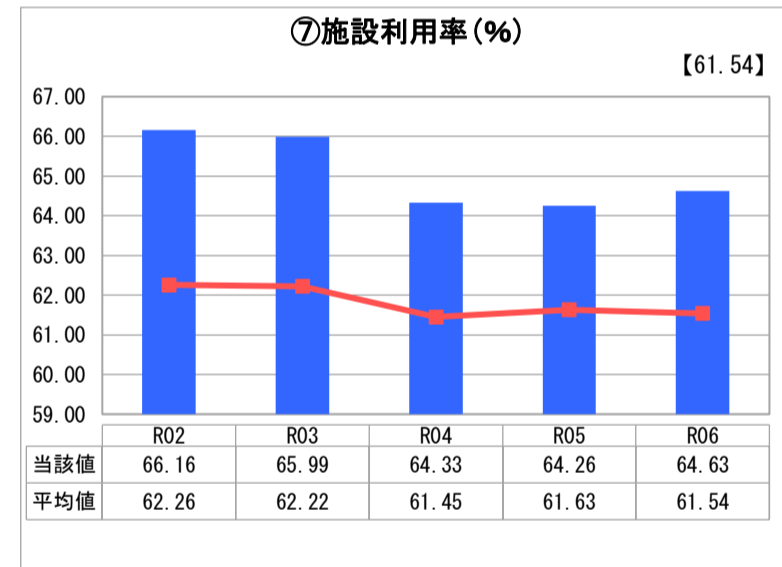
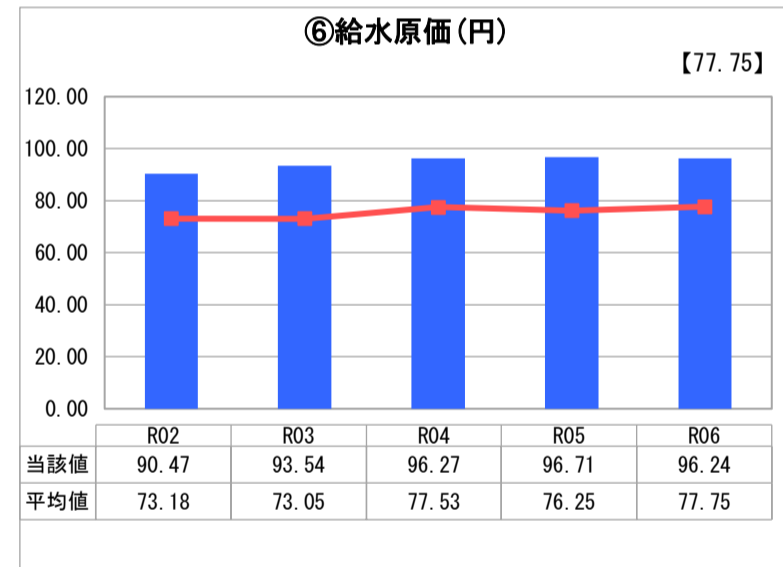
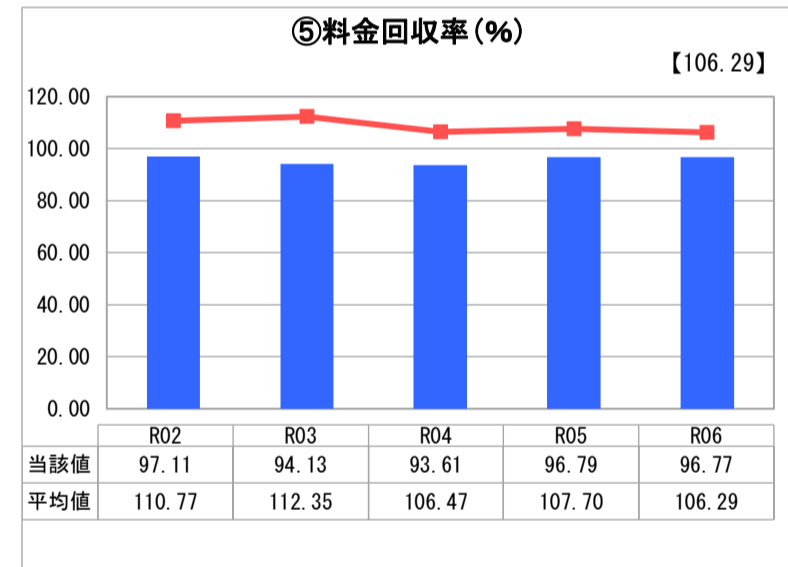
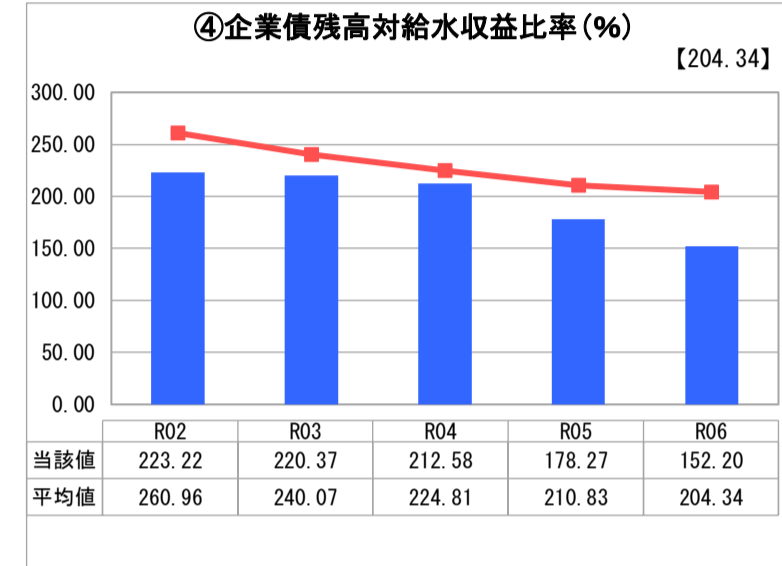
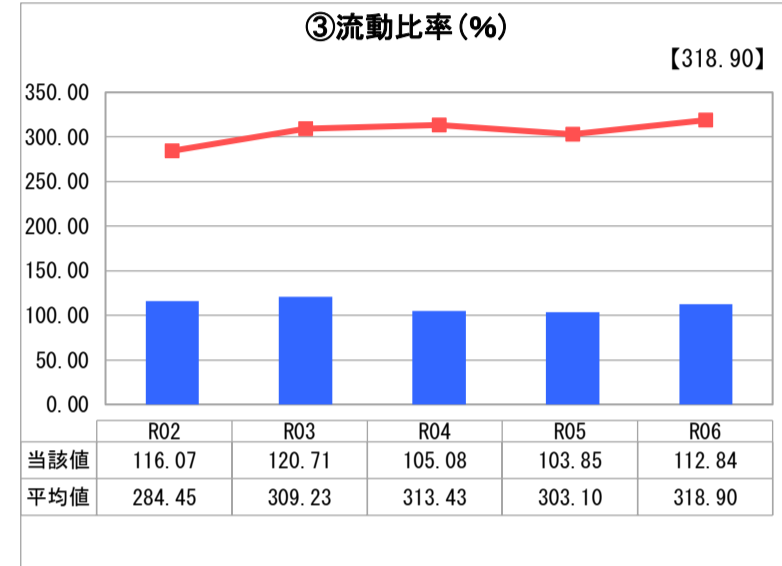
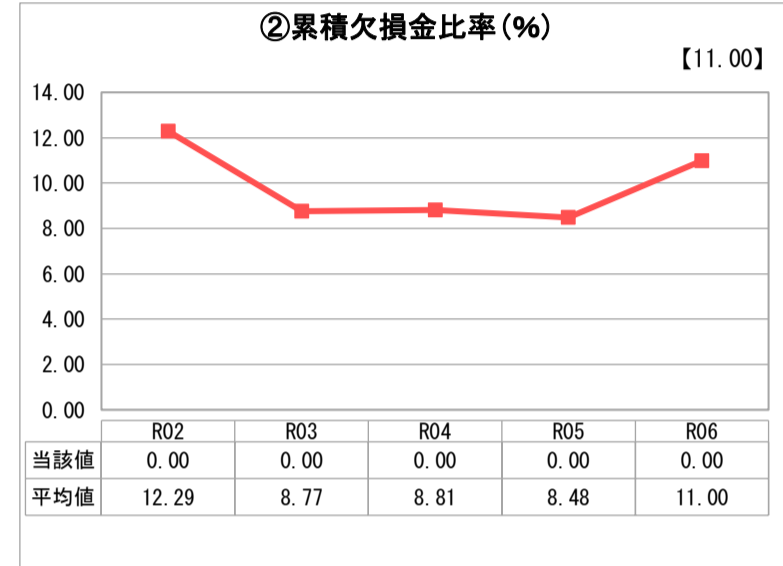
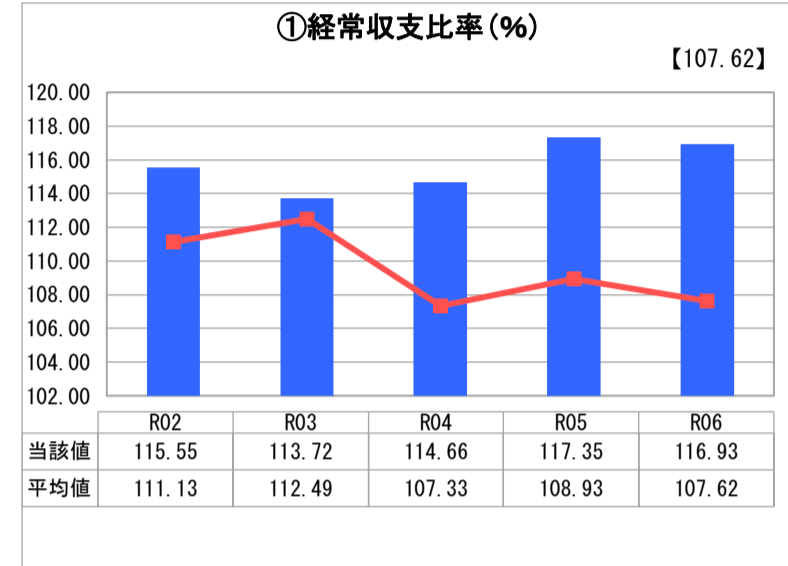
福岡県 福岡県南広域水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	用水供給事業	B	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	72.87	85.53	0	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
721,952	664.10	1,087.11

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

【①経常収支比率】
100%を超えており、類似団体平均を上回っている。

【②累積欠損金比率】
累積欠損金は発生しておらず、経営の健全性は維持できている。

【③流動比率】
類似団体平均と比較すると低い状況が続いている。しかし、流動資産と別に、投資有価証券等の資金に交換できる固定資産を保有しているため、長期的にも支払能力に不足を生じることはない。

【④企業債残高対給水収益比率】
企業債残高を徐々に減らしてきており、類似団体平均よりも低くなっている。

【⑤料金回収率】
100%を下回っているが、料金収入以外（受取利息・水質検査料等）があり、経常収支は黒字となっている。当面はこの状況を維持できるが将来的には対策を検討していく必要がある。

【⑥給水原価】
類似団体平均より高い状況にある。近年は、R4年度まで実施していた第二期拡張事業に伴う管路整備によって、増加傾向にあった。R6年度は前年度と同水準であった。

【⑦施設利用率】
類似団体平均より高い状況にあるが、災害や漏水に備えて、ある程度の余力は保っている。

【⑧有収率】
供給水量（有収水量）が給水量であるため、100%となっている。

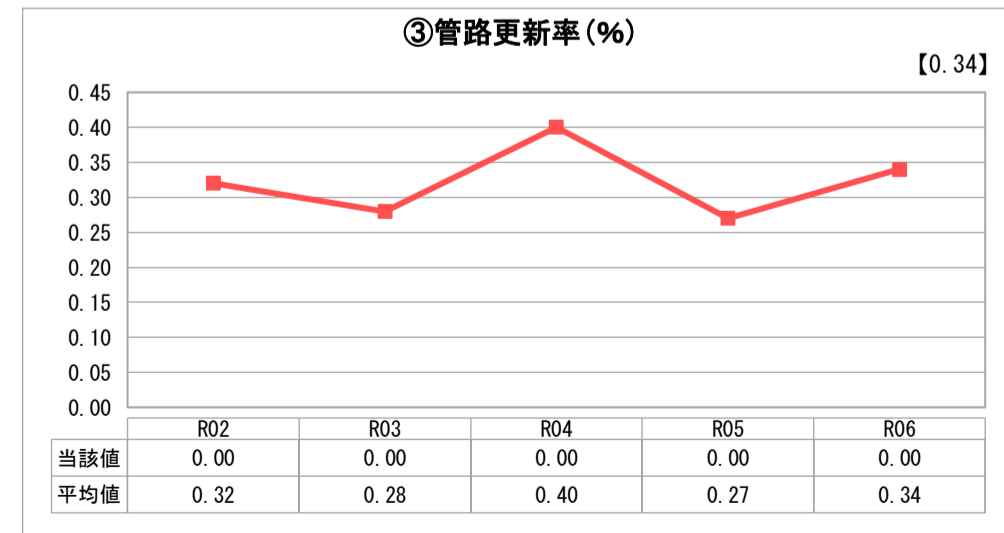
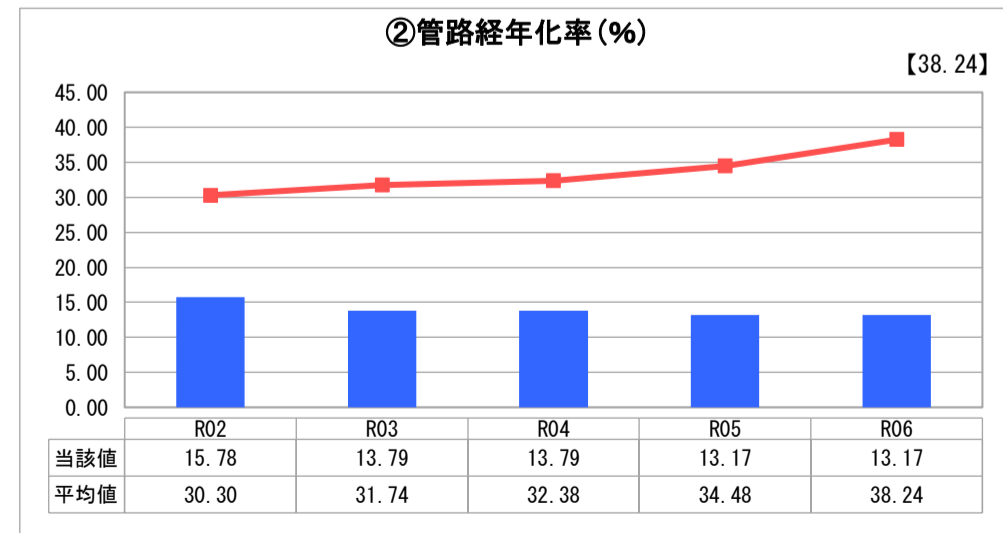
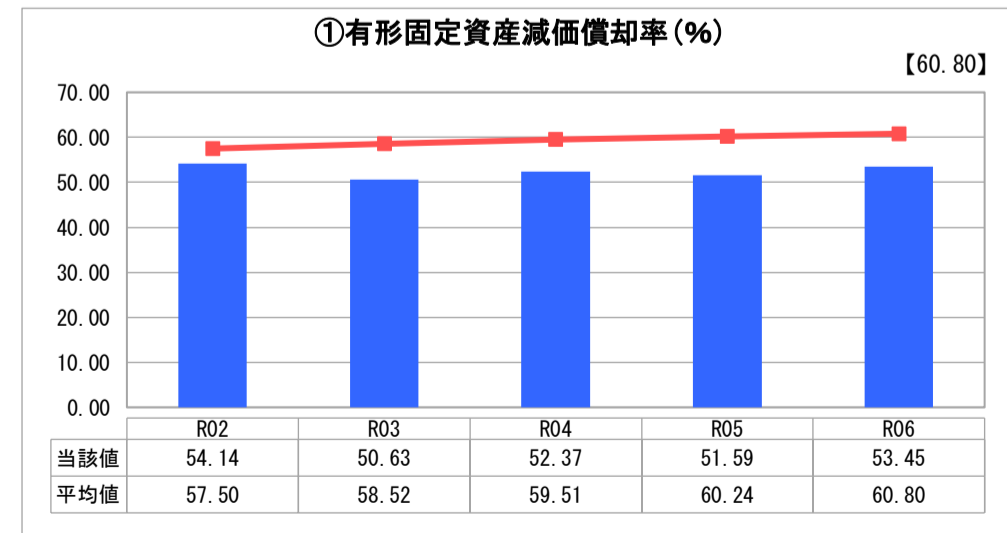
2. 老朽化の状況について

【①有形固定資産減価償却率】
類似団体平均より低い状況にある。今後もアセットマネジメントを実施し、計画的な施設更新を行っていく。

【②管路経年率】
類似団体平均より低い状況にあり、今後も管路整備事業計画により、計画的な管路更新を行っていく。

【③管路更新率】
R6年度は管路の更新を行っていないため、0%となっている。今後は管路整備事業計画により、計画的な管路更新を行っていく。

2. 老朽化の状況



全体総括

当企業団の水需要は、R8年度をピークにそれ以降、減少していく一方で、今後は、浄水場の再構築や管路等の更新に伴い、施設整備費が増加すること並びに物価高騰による費用の増加が見込まれることから、経営状況は厳しくなることが予想される。また、技術職員の減少及び高齢化が進んでおり、特に専門職における人材の確保が年々、難化している状況である。

このような中で、令和2年度に策定した経営戦略を令和6年度に改定し、将来にわたって安定した事業運営を行うため、経営戦略に掲げた施策を推進し、健全な経営に努めることとしている。